

第9回 日本安全運転医療学会学術集会報告

玉井 顯*

Report: 9th meeting of the Japanese Society of Safe Driving and Medical Conditions

Akira Tamai*

*敦賀温泉病院 認知症疾患医療センター

[〒914-0024 福井県敦賀市吉河 41-1-5]

*Tsuruga Onsen Hospital Dementia Disease Medical Centre

第9回日本安全運転医療学会学術集会を、2025年11月28日・29日の2日間にわたり、福井県敦賀市プラザ萬象にて開催いたしました（図1）。

敦賀は、古来より交通の要として栄えてきた地であり、鯖街道や北前船の寄港地、さらには鉄道の結節点として重要な役割を担ってきました。近年では新幹線の延伸によりアクセスも向上し、改めて交通ネットワークの要衝としての価値が見直されています。このような交通の歴史ある地において、本学術集会を開催できたことを大変光栄に思います。



図1 学術集会会場にて（プラザ萬象）

本学会は、疾患や障害を有する方々の「安全な移動」をいかに支えるかという、極めて実践的かつ社会的意義の高い課題に取り組む学会です。近年、種々の学会において運転に関する議論が活発に行われる中、運転を主題とする本学会の果たす役割は極めて大きいものと考えております。

高齢化の進展とともに、運転をめぐる問題はますます複雑化しております。運転を継続することの意義と、断念せざるを得ない場合の生活支援、その双方を視野に入れた対応が求められる時代となりました。もはや「運転できるか、できないか」という二分法では語ることはできず、その人の生活や社会とのつながりを含めた包括的な視点が必要であると考えます。

本学術集会では、「地域のネットワークづくりから始まる安心・安全な交通社会」をテーマに掲げました。今回の学術集会は、認知症を軸に据え、「ネットワーク」という視点から内容を構成しました。運転支援は医療のみで完結するものではなく、行政、警察、教習所、福祉、地域住民など、多様な主体の連携の中で初めて成立します。本大会では、「高齢者・認知症の運転」を中心に、脳内ネットワーク、国・県・地域の連携、さらに制度との関係といった多層的なネットワークを意識した構成といたしました。

運転という行為は、視覚、運動、記憶、判断など、複数の脳機能が統合されて成り立つ高度な活動です。そのため、運転を支えるためには脳内ネットワーク

の理解が不可欠であり、本学術集会においても、高次脳機能や神経基盤に関する視点を取り入れながら議論が行われました。このような脳科学的理解は、運転適性の評価や安全運転支援の発展に重要な基盤を与えるものと考えます。

また同時に、運転は社会の中で成立する行為でもあります。運転適性の評価や認知症診断後の対応においては、本人や家族だけでなく、認知症疾患医療センター、警察署、自動車教習所、自治体、公共交通機関などの連携が不可欠です。特に地方においては、免許返納後の移動手段の確保が課題となることも多く、地域全体で支える仕組みが求められています。本学術集会では、敦賀における運転支援ネットワークの現状と課題についても議論を深める機会となりました。

1日目は地域に開かれた取り組みとして、市民フォーラムおよび医療・介護・福祉従事者向け研修会を開催いたしました。市民フォーラムでは認知症の早期発見・予防と自動車運転をテーマに、地域住民への理解と啓発を図り、研修会では高齢者の運転と地域生活をテーマに、現場に即した支援の在り方について検討を行いました。これらは、安全運転医療を地域に根付かせるための重要な実践であったと考えております。

2日目には学術集会として、特別講演、教育講演、シンポジウム、一般演題、ポスター発表を通じて多角的な議論が行われました。運転支援を単なる評価や可否判断にとどめず、生活機能や社会参加の維持という観点から再考する試みが多く見られたことは、本分野の今後の方向性を示すものであったと感じております。また、企業展示ではドライビングシミュレーターなど体験型の企画も行われ、実践に直結する学びの場となりました。

本学術集会には、学術集会として276名が参加し、1日目の関連企画を含め延べ575名のご参加をいただきました。さらに運営スタッフを含めると600名を超える規模となり、多くの方々のご協力のもと開催することができました。活発な議論と交流が生まれたことは、本学会の目的に照らしても大変意義深いものであったと感じております。

安全運転を支えるためには、多職種の連携が不可欠です。医療、行政、警察、教育、産業など、それぞれの立場を超えたつながりの中でこそ、実効性のある支援が生まれます。本学術集会が、そのような連携をさらに深める契機となることを願っております。

なお、本学術集会の開催にあたり、ご登壇いただいた先生方、ご参加いただいた皆様、ならびに企画・運営にご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。さらに、個人的なことではありますが、偶然にも本学会1日目に皇居において叙勲の栄に浴し、地域および人のために尽くしてきたことへのお言葉を賜りました。この経験を励みとし、今後地域に根ざした医療の実践に努めてまいります。

本学会を契機として形成された多職種間のつながりは、学会後も持続的なネットワークとして発展し、新たな実践および研究の創出に寄与しております。本学術集会が、そのようなネットワークのさらなる深化と拡張につながることを期待しております。

『移動を守ることは、その人の人生を支えることにつながります。』

第9回 日本安全運転医療学会学術集会



地域のネットワークづくりから始まる 安心・安全な交通社会

会 期 2025年11月28日(金)～29日(土)

大会長 玉井 顯 (医療法人敦賀温泉病院)

会 場 プラザ萬象 (福井県敦賀市東洋町1番1号)

大会事務局 第9回日本安全運転医療学会学術集会 運営事務局(医療法人敦賀温泉病院)
Mail: untentsuruga2025@gmail.com